

文化財〈古文書〉展示
一挙公開！幕末のかわら版 展示解説〈補遺〉

異国降伏祈禱札

嘉永 7 (1854) 年 3 月 8 日

縦 84.0×横 14.1cm

鞍岡神社 蔵

嘉永 7 (1854) 年の異国降伏祈禱札が、下粕の鞍岡神社にも保存されていることが分かりました。

平成 11 (1999) 年に執り行われた鞍岡神社本殿の屋根葺き替えの際、本殿内部に棟札 6 枚とともに異国降伏祈禱札 1 枚の納められていることが、宮司の太田氏によって確認されました。今回の展示会開催を契機に、太田氏から情報をご教示いただきましたので、展示会終了後に調査を実施しました。従来知られていなかった重要資料のため、展示解説の〈補遺〉という形で、概要を紹介します。

この祈禱札は木製で、表面にのみ墨書があります(写真・翻刻文参照)。当時の神主太田直信の記録「旧記」(展示No. 15、展示解説 12 頁)には、鞍岡神社では 3 月 2 日から 8 日まで 7 日間祈禱したと記述があることから、祈禱札に認められた 3 月 8 日は祈禱の最終日にあたることが分かります。祈禱札は、結願の後、本殿内に納められたのでしょう。

なお、「旧記」には「板方認方」として祈禱札の文面が筆写されていますが、祈禱札本体とは若干文面が異なっています。

すなわち、祈禱札では「嘉永七甲寅歳」、「奉祝詞」とある箇所が、「旧記」では「嘉永七年寅」、「奉御祈禱」となっています。

日米和親条約の調印前後、南山城各地の神社では異国降伏の祈禱が実施されましたが、このうち、現在、祈禱札が確認されているのは、北稻八間の武内神社と下粕の鞍岡神社の 2 社だけです。精華町内の 2 つの神社に伝来した祈禱札は、異国降伏の祈禱が実際に行われたことを裏付けるもので、幕末の南山城地域における攘夷思想の一端を示す貴重な歴史資料です。

嘉永七甲寅歳三月八日
奉祝詞天下泰平御武運長久異国降伏祈所
祭主太田対馬藤原直信

